

学校だより

平成24年 1月 17日

20号

仙台市立袋原中学校

～となんのかぜ～ Tel 022-242-3151

E-mail hukurobr@sendai-c.ed.jp

URL http://www.sendai-c.ed.jp/~hukurobr/

杜南の風

～ 袋原中から保護者・地域の皆さまへ ～

日本PTA新聞に本校の「受賞の喜びの声 活動紹介」が掲載!

平成23年度優良PTA「文部科学大臣表彰」を受賞した学校の記事が、昨年11月30日付け日本PTA新聞に掲載されました。日本全国で、135団体が、「文部科学大臣表彰」を受けましたが、その135団体の代表として全国で6団体が掲載され、本校のPTAも紹介されました。これまでの、袋原中学校の31年間にわたるPTA活動が高い評価を受けた現れではないかと考えております。今年も、この潮流に乗りながら、袋原中学校がますます発展するように、地域・保護者の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

(なお、日本PTA新聞の掲載部分は別紙にて保護者の皆様には配付いたします。)



第40回教育論文に袋原中の共同研究入選

財団法人日本教育公務員弘済会の第40回教育論文に本校の共同研究「将来に向かって前向きに取り組む学校集団の構築 ～共に夢をはぐくむ生徒と教職員～」が入選しました。これまで生徒が「夢に輝く」ように全教職員が願って取り組んできた内容をまとめたものでした。特に、生徒に生徒会活動、各種ボランティア活動、行事などへ前向きに取り組ませるための教師側の指導の在り方や実際の生徒の実践などについて共同研究したもので、校長先生からアドバイスをいただきながら、教頭先生がまとめ役となり、校内の教務部や生徒指導部の先生方が中心となって作成しました。今後、さらに生徒の成長のための指導・支援の在り方の土台となるように研修を進めてまいりたいと存じます。

MPボランティア反省会を行いました。

昨年、12月19日に本校視聴覚室で、MPボランティアとして協力いただいている3名の保護者の方と日本公文教育研究会の本校担当小山孝康さんと校長先生、教頭先生、教務主任の花田先生で今年度のMP学習や採点ボランティア活動の反省会を行いました。

ボランティアの保護者の方からは、震災のためにMP学習の開始は遅れたが、生徒が意欲的に取り組んでいる事やボランティアの人が少ないので、募集などについて検討してほしいとの話が出ました。小山さんからは、業務上袋原中に訪問する回数が減ったので心配していたが、ボランティアの方の協力や先生方の粘り強い指導のおかげで良い方向性に向かっているとの話が出ました。担当の花田先生からは、実際の生徒の取組を見ていると、採点者を困らせるくらい熱心に取り組んでいたり、ボランティアの方のコメントを励みに取り組んでいたりする生徒の報告がありました。全体での協議としては、来年度より、MP学習の時間が今年度よりも減ることになるので、それに対応するように準備を進める必要があるとの貴重な提言がなされました。参加いただいたボランティアの皆さんありがとうございました。



こだま 57号が発行されました。

例年通り、仙台市中学校教育研究会より、こだま57号が発行されました。こだまは、仙台市内の中学校生徒の代表の作品が掲載されるものです。本校からも、優秀な作品が掲載されたので紹介いたします。なお、こだま編集委員として、本校の国語科の門間由紀子先生も携わっております。

本校の作品は、情感深い心を打つような生活文（2年生）、詩（3年生）とその情景が目の前に浮かんでくるような短歌3作品、俳句4作品が掲載されました。生徒の皆さんも、これからも袋原中の文化の向上のために沢山の良い作品をつくるように頑張ってください。

（生活文） ※概略のみ掲載します。

県中総体

2年 佐々木 香菜子

県中総体の2日目。私は、100メートル走のスタートラインに立っていた。この1年間、ただ速く走ることを目標に頑張ってきた。

1年前は、市中総体にも出場できなかった。

それからは、選手に選ばれるために、つらい練習を頑張ってきた。夏の太陽が容赦なく照りつける炎天下の中で、冬の寒空の下で私はただ練習に取り組んできた。県中総体の出場が決まったときは本当にうれしかった。

背後から、仲間の応援が聞こえてきた。私は仲間の方を振り返らなかつた。みんなを見ると、なんだか涙が出そうな気がした。

私は、今日観客席で応援してくれる両親と弟に、私の頑張っている姿を見てもらいたかった。両親はいつも応援し見守ってきてくれた。

スターターの合図の音が聞こえ、パーン、というピストルの乾いた音がした。私は出遅れることなく、良いスタートができた。百メートルのゴールを目指して私は懸命に走った。

走ってみると、あっという間の百メートルを私は走りきった。結果は2着でゴールした。

（やったあ、よかった）と心の中で叫んだ。準決勝進出という安心感と緊張感、そして達成感が複雑に入り交じった。大きく深呼吸をして呼吸を整え、明日も走れるという感謝の気持ちを込めて、百メートルトラックを見つめて深々と頭を下げた。

	(短歌)				
素振りする月光の中虫の声	盆踊り祖母の背を見て輪に入る	夕立の雲を見つけて早歩き	夏の庭競って楽しいタネとばし	夏の朝じゃがいも掘って汗をかき田舎の畑家族がそろう	夏の夜降りつづく雨しとしとと稲なき田にもかえるの歌声
一年	一年	二年	三年	一年	三年
佐藤 千尋	佐藤 龍平	松山 悦子	中村 巧	千葉 一輝	熊谷香名子
				二年 大森 藍	

ずっと心に・・・

三年 菅原 真優

私は一九九九年十二月十二日生まれ
名前はリッブ

二〇〇三年一月二十日

私は六匹のおかあさんとなりました。

二〇〇三年十二月二日

私は三匹のおばあちゃんとなりました。

私は口を開けないけれど、

みんなの顔や目で

みんなの言葉を読みとりました。

私は幸せでした。

いつもみんなに見守られていました。

今度は私がみんなを見守る番です。

大好きな家族がいつもそばにいてくれました。
私が遠くに行くときもそばにいてくれました。

ありがとう

私はみんなを幸せにしましたか

私はみんなに何かを残せましたか

みんなは私に逢えて良かったですか

私はみんなに逢えて良かったです。

ずっと心に・・・

私のことを どうか忘れないでください。